

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本年度から、系列事業所と共通の理念とした。 職員が理念を理解し、グループ全体の共通理念に基づいたサービスを提供できるよう実践中である。	理念は法人の系列事業所と共通の理念とし、玄関、ホール、事務室に掲示されわかり易くなっている。重要事項説明書にも書かれており、入居時家族に話している。職員会でも話し合い意識付けがされ、実践につなげている。利用者への敬いの気持ちを大切に言動については互いに注意し合っている。理念にそぐわない言動が職員にあった場合には管理者がその時話をするようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には健康状態を考慮して、出来るだけ参加するよう心がけている。地区の敬老会に参加したり、ピアノやマジックなどのボランティアの方とも定期的に訪問して頂いている。	区費を納め地域の一員として活動している。地区の行事については区長よりお誘いを頂き、文化祭や敬老会に参加し、利用者も曲目を決め唱歌を披露している。会場が2階で歩行状態により参加者が限られ、次回は習字の作品展示への出品も予定している。ボランティアの定期的訪問がありマジックを見たり、ピアノ、カラオケに合わせ歌い、楽しく交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営委員会の折に、地域包括から認知症についての助言・指導をいただき、会議の構成員と共に学習させていただいて、日々のケアの参考にさせていただいている。包括主催のオレンジリングの活度にも施設として協力させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度より、構成員に同業他社が参加するようになり、会議の折に意見交換を行い、日々の業務の参考にしている。また、構成員の中に市から派遣されている相談員さんにも積極的に意見を求めるようにしている。	家族代表、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、介護相談員、他のグループホームの職員(知見者)、関係職員が参加し2ヶ月に1回、ホームにて開催している。開催日は第4金曜日と決め、元介護職の方もメンバーの中にいることからアドバイスを頂くなど、中身の濃い話し合いができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1度、市の相談員の来訪があり利用者の意見を聞いてもらっている。その相談員さんが運営会議の構成員にもなっていており、色々アドバイスを頂いている。また家庭内暴力がある利用者を緊急避難的に受け入れており協議をする中で連携を深めている。	困難事例については市との話し合いを重ねている。介護認定更新調査は調査員が来訪し立ち会う家族もおり担当職員と話をしている。月1回市の研修会があり(虐待、看取り、感染など)他職種との交流や意見交換も行われている。介護相談員が月1回訪問しており、利用者の話を聞いた中から貴重な意見を頂き連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、多発性脳梗塞の既往歴があり、認知症の進行とともに、指示を受け入れてもらえず、車椅子から立ち上がり転倒を繰り返している利用者様に対して、ご家族の同意を得たうえで、車椅子上での拘束帯を付けさせている。運営委員会でも議題提示させていただいて構成員の方々から意見を頂いている。	玄関、ホール入口のは安全面から施錠している。職員会や打合せ時話し合いを重ね身体拘束をしないケアに努めている。車椅子から立ち上がる利用者には日中拘束帯を外す努力をし、家族との話し合いも行われている。離脱傾向の強い方には利用者へ寄り添い話を聞き納得して頂いている。人感センサー使用の方も数名いるが、その必要性についても定期的に検討している。	

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり、職員会議の中で研修会を開き虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	責任者は機会あるごとに研修等に参加して、現在、1人の利用者様が制度を利用している方がいてその法人と連絡を密にとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をとって説明している。利用料金、起こりうるリスク、看取りについてなど当事業所の考え、ケアに関する取り組みについても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族とは、5月のGW時期、9月の敬老会時に意見交換をする場を設けており、頂戴した意見については施設運営の参考にさせていただいている。	家族会は5月と9月の年2回、ゴールデンウィークと敬老会の際に行われ、ケアプラン見直しや看取りについても家族と話をしている。利用者と一緒に食事会も行われ、意見をお聞きする機会とし、ホームの運営に反映している。家族の来訪は週1回、月1回、半年に一度と様々であり、利用者の体調変化については早めの報告を心掛けている。「サンライズ里山辺新聞」を発行したりブログを開設し、家族に喜ばれている。ブログを見た方からも好評を頂き、更新も頻繁に行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを月1回、また、勉強会を適時開き、意見を聞いている。日ごろからコミュニケーションを図るようには努めている。	職員会議は月1回、第1木曜日に全員参加で行われ、活発に意見が出されている。欠席者は議事録を確認している。カンファレンスは2階・3階合同で行われ、双方の利用者の状況を把握できるようにしている。年1回、管理者と職員との面談が行われ、働き方について希望や意見を聞き入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も月1回の職員会議や、適時開く責任者会議に参加を心がけている。職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意思を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修になるべく多くの職員が受講できるようにして、それらの研修報告をミーティング等にて伝達講習をしている。また、本年度から相澤病院主催の出前講座を活用させて頂き、職員のスキル向上に役立たせている。		

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一昨年度から、運営委員会の構成員に他法人同業者にもなっていただき意見交換をすることにより、日々の行事などの参考にさせていただいている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家庭や施設に訪問面談を行い、ご本人様、ご家族様の思いや生活状況を把握し、入居時には安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームでは、どのような対応が出来るのか事前に話し合いをしている。ご家族の立場に立ち、話をしっかり受け止めながら信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の事前相談では、必ずご本人にとってグループホームでの生活やケアが最善であるのかを系列の他事業所にも相談しながら慎重に見極めるようにしており、外部のサービスを使った方が良いと判断した時は、自施設以外の事業所を紹介させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にするという共有の意識の中で、職員は利用者様を人生の先輩と敬い、その生活歴の中で体験してきたことなどを、職員が見聞することで、利用者自身が施設の中で役立つことがあるんだと思えるような関係作りを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご利用者様を自分の家族と同じように思っていることを伝え、ここに自分が居ても良いんだと思ってもらえるような関係作りを目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との絆を実感していただくため、定期的な面会や、外出、外泊などを家族と相談しセッティングしている。また馴染みの場所などは外出の際にできるだけ訪れるようにしている。	家族と昼食を食べに出掛けたり、ご主人の待つ家に2泊3日で外泊をする方もいる。訪問理美容が来て毛染めやカットをホールで行っており、馴染みの関係となっている。家族に電話をかけた後、年賀状、絵手紙を出す利用者もいる。衣類を買いに馴染みのショッピングセンターに職員と出掛ける方もおり、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	当施設では、利用者同士が自然に助け合い、喜びや悲しみを分かち合えるような関係が自然に出来ている。		

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方にも、その後の様子を聞いたり、ご家族の話聞いて相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で、話を聞いたり、積極的に話しかけている。また、あまり話したがらない利用者様には、ご家族から話を聞いて把握しようと努めている。	ほぼ全利用者が思いや意向を表出できる。利用者の生活歴については家族より聞き、本人の意向に沿った支援ができるよう取り組んでいる。利用者は自発的にお手伝いをしており、お手伝いすることで役に立つ喜びを感じている。日頃つぶやく思いや意向を記録に残し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の中で、ご本人様、ご家族に聞いて把握に努めている。また、入所後も日々の会話の中からヒントを得られるよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれの生活リズムを理解し、行動や小さな動作、表情などから読み取れるよう心がけている。生活を共にする中で、心身の状態や出来ること出来ないことを察知するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でのカンファレンス、アセスメント・モニタリングを繰り返し行い、体調に変化が見つかれば、その都度プランの見直しを行っている。	職員は1名の利用者を担当している。担当者が計画作成担当者話し、全体やフロアのカンファレンスで話し合い、管理者と計画作成担当者で介護計画を作成している。家族からも意向をお聞きし、計画作成時には同意を頂いている。カンファレンス、アセスメント、モニタリングを繰り返し、3ヶ月に1回見直しを行っている。状態に変化があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミーティングの中で、記録、情報の共有を行い、細やかな修正を行っている。また、入社時には記録や連絡ノートを確認し、情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームは、介護保険上、他サービスが使えないので画一化したサービス提供になってしまいがちなので、フォーマルやインフォーマルなサービスを活用し利用者様のニーズに応えるようにしている。		

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方達に、ピアノとソプラノコンサートやマジックショー、カラオケコンサートなどに来ていただき、利用者様の日々の生活を豊にするような支援をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医には月1回の往診をしてもらっている。体調不良の時は、先ず訪問看護に相談・指導を仰ぎ、指導があれば主治医に相談・受診している。主治医とは直ぐに連絡が取れるようになっており体調不良時には直ぐに助言・指導いただける関係性ある。	全利用者がホーム協力医の月1～2回の往診と訪問看護ステーションから毎週火曜日、看護師が来訪し健康管理がなされている。協力医への受診は職員が対応し、家族対応時には経過報告書を渡し受診している。主治医とはいつでも連絡がとれ助言・指導を受けることができるので安心感が増している。歯科医の往診も月1～2回あり、数名の利用者が治療を受け、嚥下体操の指導なども受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と医療連携をとり、週1回の定期訪問の他、24時間体制をとり、訪問の際には各利用者の健康管理、適切な医療サービスが受けられるよう支援している。また職員と看護師が緊密に相談できる関係は出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院したときは、面会を重ね、病院の相談員とも連携をとり情報の交換に努めている。家族とも連絡を密に連携し支援するように心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本年度も家族会でリビングウイールについて説明させていただいた。契約時には、当施設の重度化した場合と終末期について説明はしているが、デリケートな問題なので説明は慎重を期すようにしている。医療・訪看と連携してカンファレンスを行っている。	重度化や終末期の対応についての指針があり利用契約時に説明し、家族の意向も聞き、支援に取り組んでいる。法人内の系列事業所との連携が可能となり、医療的な処置が必要となった場合や一般浴が困難になった場合、住み替えの提案を行い、家族と話し合い施設を見学して頂き意向に沿った支援に繋がっている。状況を伝え、安心して移られた利用者が数名いる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、夜間時の緊急対応をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年7月に火災訓練、10月には土砂災害想定訓練をした。平成23年12月運営推進会議において、地域と防災協定の締結を結ぶことが出来た。地域との協力体制を築けており、訓練にも参加いただいた実績あり。	年2回、7月と10月に防災訓練が行われている。ホームのある地域は土砂災害危険区域になっており10月は土砂災害想定訓練を行った。消防署員立会いの下、通報訓練、初期消火訓練を行いベランダへ避難した。2階ユニットの歩ける方は階段を使用し3階へ、また、1階駐車場へも避難し、AEDの講習も行われた。地域との防災協定が結ばれており、昨年度は運営推進会議のメンバーが訓練に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者それぞれの性格や個性に合わせ、プライバシーやプライバシーを損ねることがないように常に職員間で話し合っている。特に言葉掛けについては、間違った言葉掛けを放置しておけば虐待へと繋がる恐れが大なので、職員同士で話し合える環境づくりに努めている。	職員会議で尊厳やプライバシーの保護について話し合いを重ねている。責任者会議で話し合われた内容を管理者より職員に伝え意識を高めている。「親しき中にも礼儀あり」を徹底し、家族に対する言葉遣いや行動についても職員間で注意し合っている。居室入居時はドアをノックし、確認して入るようにしている。呼び掛けは苗字に「さん」付けで配慮している	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の立場から、その時々に応じ選択の幅を広げられるよう、声かけなど利用者様の気持ちを考え行い、利用者様が表出した希望は出来る限り実現してやり、出来ないことに関しては「出来ない」と言うのではなく、代替案が提示できないかを考えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、1人ひとりの体調や気持ちに配慮しながら、そのときの希望を取り入れ、個々の流れは多少違って、それぞれが上手く溶け合えるような時間の流れを作れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身だしなみは、本人の好みで支援している。化粧品の買い物などは職員と買いに出かける方もいる。2ヶ月に1度訪問理容に来てもらっている。希望にて訪問理容に髪の毛を染めてもらっている利用者様もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなどは、利用者様に毎回手伝ってもらっている。	全介助の方と一部介助の方が若干名ずつで、その他の方は自立しており職員と一緒に食事をしている。日々の献立や食材は納入業者からの高齢者メニューとレシピで対応している。流しそうめんなども行い、カレーを皆で作って好評であったという。利用者は、台拭き、盛り付け、食器拭きなど行っている。家族や近所の方からスイカ、梨、ぶどう、柿などの果物を頂き、季節感を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	認知症ケアの基本は水分ケアであるとの考えで日々の水分摂取量には十分気を付けるようにして摂取量を食事量と共に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアをST指導の下に行っている。また訪問歯科にも来てもらっている。気になる使用者については相談・治療してもらっている。義歯使用者については就寝時に義歯洗浄剤を使用している。		

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを記録・考察することにより、いつまでもトイレで排泄できるよう支援している。	全介助の方と一部介助の方が数ずつでその他の方は自立しており、夜間ポータブルトイレを使用する方もいる。排泄表により一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援に取り組んでいる。トイレはユニットごとに6ヶ所あり、トイレと大きく記しトイレのマークもあり、動線をテープで貼るなど工夫がされわかり易くなっている。人前で失敗した場合には他の利用者に気づかれないよう支援している。オムツの費用削減にも気を配っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特に水分摂取量に気をつけている。また、足踏み運動や散歩など軽運動を毎日取り入れるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則は週2回の入浴を実施している。それ以外では、本人の希望や状況に合わせて、シャワー浴も行っている。入浴拒否のある方には、安心感を持ってもらえるよう、歌を歌ったり思い出話をしたりするなどし、リラックスして入浴できるよう支援している。	全介助の方が若干名で、その他の方は一部介助や見守りで週2回入浴している。歌の好きな方が多く歌を歌いおしゃべりをしながら入浴されている。入浴拒否のある方に他の利用者が声をかけ一緒に入浴されることもあり、声がけを工夫し次の日に入浴されることもある。菖蒲湯やゆず湯など、季節のお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量に配慮し、生活リズムを整えるようにしている。加齢とともに体力の落ちている方には本人の意思を汲んで休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬はその都度、別の職員に薬袋を見せて本人のものかを確認するようにしている。状態の変化時には、直ぐに訪問看護、主治医に相談し指示を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で、自然と役割ができ、体調を見ながら一緒に行うという充実感を味わっていただいている。また、利用者間でその日、何の歌を歌うのかと決めたり、散歩、体操等気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を感じられるよう、桜観賞、紅葉、祭りなど外出を支援している。天気の良い日には、散歩や外気浴をしに外に出て、季節を感じていただいている。また、本人の希望に応じ、ドライブや買い物など外出支援も行っている。	年間行事計画表がありレクリエーション係が企画立案している。少人数で車に乗車し、松本城、桜、牡丹、紅葉、すすきなどを観に出掛け季節を感じている。玄関先には長椅子が置かれ外気浴をし、散歩時、近所の方から声をかけて頂き、流しそうめんや夏祭りも駐車場で行われている。ベランダからは眺めも良く、すすき川の花火大会観賞が恒例行事となっている。毎日のラジオ体操やテーブル周りの歩行を行い筋力低下を防いでいる。	

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の中には「お部屋代を払わなくては」と訴える人もおり、ご家族に支払いをしていただいているので大丈夫ですと何度も説明することがある。金銭の所持を希望される利用者様には家族との話し合いの上、小金額所持していただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様からの希望がある時や、家の事を不安に思っている方で家族の了承をえている方には電話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活の音、季節の香り、目で楽しむことなどを、リビングや日常の生活の中に取り入れ工夫している。	1階玄関には利用者一人ひとりの下駄箱が設置され、2階に上がると、ホールで利用者がテレビを観て過ごされている。窓からの眺めは良くアルプスの山々や松本市内を一望でき、大きなソファや椅子に座わって日光浴もするという。壁には利用者が制作したぬり絵や習字、敬老会の写真などが飾られており、掃除も行き届き、空調はエアコンと床暖房が設置され快適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにテレビ、ソファを置き、自由に使えるスペースを確保して、それぞれ思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物や写真など馴染みの物を持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配慮している。	各居室の表札は利用者の状況に応じた掲示となっており、居室内には備え付けのクローゼットがあり、お気に入りの洋服が掛けられており使いやすくなっている。家具やテレビが持ち込まれ家族との写真も飾られ、掃除も行き届き、心地良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの心身状態を理解、把握し工夫するよう心がけている。混乱が続くような時は、その原因を職員一同で話し合い取り除けるよう環境の整備に努めている。		